

## SQL 文の解析結果（実行計画）をキャッシュに可能な限り保持して、 SQL の実行前解析を低減させるための設定

カーソルをクローズした後も SQL 文の解析結果（実行計画）の領域を解放せずに残す。  
そして、再度同一の SQL 文が実行された時に、SQL 文の実行計画をキャッシュから利用して効率化を図る

### 【注意】

キャッシュ対象は、実行計画であり、テーブルのレコードの実データではない  
なお、実行計画がキャッシュされている有効範囲は、セッションが切断されるまでである

### 【設定方法】

初期化パラメータ `SESSION_CACHED_CURSOR` =  
0 : クローズ後は、カーソルのキャッシュを破棄する  
整数 : クローズ後もキャッシュを保持する上限数

### 【SQL 文での注意】

カーソルを明示的に生成した場合に限る

`SELECT INTO` 文は、対象外となる

```
DECLARE
  CURRSOR cur_work IS count(*) FROM employees ;
  v_cnt PLS_INTEGER ;
BEGIN
  OPEN cur_work ;
  FETCH cur_work INTO v_cnt ;
  CLOSE cur_work ;

  OPEN cur_work ;          -- SQL 文の解析は行われぬい
  FETCH cur_work INTO v_cnt ;
  CLOSE cur_work ;

END ;
```